

國江沼郡に移り住み、こゝに至りて又京師に轉じたのである。

**クチイケ** 口池 ↓オクイケ 奥池。

**クチイハヒ** 口祝 藩政の時、士人の家で其足に供へた鏡餅を煮て食するもので、正月十一日又は十五日以後にも行はれた。この鏡餅を裁断することを直すといふは、斬るの語を避けたのである。

**クチコ** 口海鼠 鹿島郡瀬風・長浦・深浦等の特産で、海鼠の卵の鹽辛をいひ、鹽辛中の高位を占めるものである。またそれと異にして、海鼠の卵を採り日光に乾したもので、干口海鼠と稱するものがある。

**クチゴホリ** 口郡 藩政時代に於いては、能登の羽咋・鹿島二郡を口郡又は端郡といひ、之に對して鳳至・珠洲二郡を奥郡といふた。

**クチサンボウダケ** 口三方岳 石川郡の中央に在る。一名池三方又は三方山といひ、二又では日明山ともいふ。高さ一二六九米。地質石英粗面岩。登路は奥池から二軒七。

**クチナウミ** 口直海 石川郡河内庄に屬する部落。

**クチマイ** 口米 口米は百姓が租米に添へて上納するもので、慶長三年豊臣秀吉の白山山麓に於ける檢地定に一石に付二升と見え、加賀藩になつては慶長十年の文書に五升、元和元年十一月の令に六升であり、翌二年九月十七日増して八升にした。次いで寛文十年從來の斗子升で量つた定納及び口米一石八升は、新京升で二石一斗一升二合四勺に當ることを算出し、且新京升五斗を一俵とする時は、定納百石及び口米十一石二斗四升を容れる俵は百二十二個となり、從來の百十六俵に比し、

六個の俵を増加するから、米四升をその費用に當て、口米は一石に付一斗一升二合に止めた。爾後藩末に至るまで變動がない。

**クヂラ** 鯨 藩政時代に於いて鯨を漁獲するは鳳至郡宇出津のみで、その肉を宇出津鯨と稱して賞美し、他の浦々では死鯨の漂着したものを取揚げのみであつた。寄鯨を浦方に分配する比率は、承應二年二月十五日の令によつて定められてゐる。即ち鯨の寄つた村へ五分、その濱並びに兩脇三ヶ村（二ヶ村しかない時は二ヶ村でも）へ二分宛、尙その村近所の里方三ヶ村へ一分である。但し沖合で死鯨を拾うた場合には、その漁民の屬する村のみの所得になつた。

**クヂラジマ** 鯨島 鳳至郡波並の内の小字。

**クヂラボネ** 鯨骨 羽咋郡今濱附近の地名。寶永元年一覽記に、末森合戦のことをいうて、『利家公御後巻の時御はたあげられしは、今濱のうしろの砂山にて、城の向ひなり。その砂山をくぢらぼねといふよし。城跡より見るに、大手は西にして少南へよれり。搦手も西にして少北へよれり。佐々陣取せし坪井山といふは城の南に見えたり。』と記する。

**クチワタリ** 口渡り 能登内浦の奥から海路を取つて鹿島郡七尾に出るをいふ。能登誌に、『宇出津などより所、口への船往來を口渡りといへり。此甲村より向かう、島の地姥・浦村へ渡るを大口というて海上一里なり。夫より島の地姥目村・長崎村・野崎村を経て、日出島村より向かうの陸地三室村へ渡るを小口と稱し、海上二十町なり。三室より太田村杯を経て所、口へ出るなり。甲村より所、口まで六里半なり。』とある。

**クツミジユウベエ** 久津見十兵衛 初め朝倉氏に仕へ、後越前府中に於いて前田利家に屬した。子孫世々藩に仕へる。

**クツヤサブロスケ** 久津屋三郎助 能美郡小松八日市に住んで、町年寄であつた。文化五年六月廿七日夜、前年の不作によつて困難した暴民の爲亂入せられ、責を負うて小松に入牢し、次いで金澤公事場に於いて糺明を受けた後、六年十月小松を追放せられ、金澤に居住した。

**クツレヤマ** 崩れ山 金澤觀音山の麓で、淺野川の川岸である。文政四年二月金澤町續郡地の一部を町支配とした時、卯辰村領崩れ山は觀音下町へ建込めるとあつて、觀音下町の續きなる邸地であつた。町名の由來は、元祿二年七月十六日及び同十二年十二月二十三日に崩壊した地であるからである。↓カンノンヤマクツレ 觀音山崩。

**クツワダトモツナ** 響田友綱 響田は又七寸五分にも作る。通稱肥後。上杉謙信の將で、天正七年平子和泉と共に鳳至郡甲山の堡主であつたが、温井景隆・三宅長盛に欺かれ、鹿島郡松百で殺された。

**クテガハ** 久手川 鳳至郡川原田郷に屬する部落。能登名跡志に、『久手川に池田の松とて名木あり。』と記する。

**クテヒコジンジャ** 久成比古神社 ↓クエヒコジンジャ 久延比古神社。

**クトウシ** 句讀師 明倫堂の教職で、御歩並以上の子弟が召出され、初等の生徒に素讀を授け、役銀五枚を興へられた。天保十年の學政修補以後この職名がある。

**クナイバシ** 宮内橋 金澤盤屋橋の次なる

惣構堀の通路に架せられ、藩政の時橋の高と下とに惣構番人の家があり、小幡宮内の邸地附近にあるから、宮内橋とも宮内殿橋とも呼んだ。此の橋下の堀に生ひ繁つた草を葦草と呼び、紅粉花の如き花が咲き、春には堀の内が悉く紅に見えたが、廢藩後惣構堀を廢したので今は絶え、板橋であつたのも明治七年に土橋と改められた。

**クニカネ** 國兼 加賀の刀工。國兼と切る。永正頃。

**クニカネ** 國兼 珠洲郡若山庄に屬する部落。村名由來書に、『此村に國兼と申百姓罷在候に付、則村名に唱申中傳候。』とある。

**クニサハゴンザエモン** 國澤權左衛門 初め熊之助。寛保三年與三左衛門元堅の遺知二百石を襲ぎ、寶曆五年大小將組に班し、大銀奉行に任じたが、町人竹屋長四郎に藩有の銀子を貸渡したことが露顯し、八年正月十七日逐電した。

**クニサハシユメ** 國澤主馬 父加右衛門は浪人で承應二年小松に歿した。主馬は前田利常に奉仕して小々將となり、綱紀の時に大小將組に班し、祿千石に及んだ。寛文三年歿。子孫歴世藩に仕へる。

**クニサハシンパチ** 國澤新八 大聖寺藩士。前田利章の時老臣野口兵部の專横なるを慨し、反抗の舉動があつた爲、享保十年三月閉門を命ぜられた。後に退藩したらしい。

**クニシゲ** 國重 加賀の刀工。甚太夫兼若の甥。通稱四郎三郎。享保の鍛冶中に見える。

**クニシゲ** 國重 珠洲郡木郎郷に屬する部落。

**クニタマジンジャ** 國玉神社 江沼郡須谷